自治体様 パートナー募集資料

「デジタル田園都市国家構想」2年目、実現に向けて

㈳デジタル田園都市国家構想応援団

2年目の事業概要と「自治体パートナー」参加のお願い

目指すべき「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築と実現するための〝地域DXプロデューサー〟の発掘・認定・育成 事業の創出

概要とご協賛・支援・協力のお願い

2023年1月30日

一般社団法人 デジタル田園都市国家構想 応援団

一般社団法人 デジタル田園都市国家構想 応援団　概要

概要	産官学民有志が集い、DXを活用した、持続可能な地域社会を実現するために、構想、連携、実装と伴走する。 事業の柱としては、⑴デジタル基盤の整備、⑵デジタル人材の育成・確保、⑶地方の課題を解決するためのデジタル実装と⑷誰一人取り残されないための取組み。
名称	一般社団法人　デジタル田園都市国家構想 応援団
設立日	2022年2月18日
会員	法人会員 自治体会員 個人会員 協賛会員　*2023年新設 *114の自治体、85社の法人、517人の個人会員、1,000人のSNS会員が参加（2022年12月時点）
連携	内閣官房デジタル田園都市国家構想(デジ田)実現会議事務局、デジタル庁、デジ田推進議連など
協力	日本/国際青年会議所、DEEP47(事務局：Creator’s Next)、一般財団法人インターネット協会 OIC(オープンイノベーション推進協議会：発起人国立9大学、早慶等)、公益社団法人私立大学情報教育協会、L47(事務局：えぞ財団)、フィンランド大使館　など

「デジ田 応援団」2年目の基本方針と期待される効果について

「デジ田」2年目。「デジ田応援団」2年目の活動の基本方針：

目指すべき自立した「デジ田ローカルハブ」のゴール設定と それを実現する「地域DXプロデューサー」認定事業の立ち上げ

特に、「地域DXプロデューサー」の認定事業とは、DXを活用した地域の課題解決と魅力化を実現できる人材を発掘・認定・育成する内容であり、「地域DXプロデューサー」を発掘・認定・育成することは、貴社にとって以下のメリットが期待できます。

⑴ 地域DX推進の最大の課題はDX人材の不足。自治体様内にDX人材の育成が可能。

⑵ リスキリング（新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、そして新しい業務や職業に就くこと）という、自治体様においても、各個人のキャリア再形成の大きな機会に。

⑶ 人的資本経営（人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営の在り方）という、まさに、地域の価値向上の経営を担う人材を自治体内で輩出できること。

⑷ 地域の小中・高校・高専生・大学生などの次世代のキャリア形成に大きく貢献できること。

⑸ 「協賛会員企業」をはじめとするDX支援企業や地域DXプロデューサーとのマッチングや連携機会ができること。

是非、ご協賛ご協力ご支援をよろしくお願いいたします。

参考資料）

2021年7月総務省た令和3年版「情報通信白書」
https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/pdf/index.html

2022年11月経産省「デジタル人材育成プラットフォームの取り組み状況」
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/pdf/006_03_00.pdf

経産省2021年～「デジタル時代の人材政策に関する検討会」
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/index.html

2021年2月
リスキリングとは―DX時代の人材戦略と世界の潮流（リクルートワークス研究所）
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/pdf/002_02_02.pdf

2022年5月「人材的伊藤レポート」
https://www.meti.go.jp/press/2022/05/20220513001/20220513001.html

「デジ田 応援団」2年目の重点施策：「協賛会員」メニュー

「デジ田応援団」2年目の重点施策：

1．「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）

2．「地域DXプロデューサー」の発掘・認定・育成認定事業の立ち上げ

3．海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム（仮称： 90 day Japanese programme）

4．国内高度人材の地域歴訪事業プログラム（仮称：テロワールラーニングジャーニープログラム）

5．地域発日本の未来をグランドデザインを構想する会議の創設

具体的な施策：

① 官・産・学・民キックオフサミット開催

② 地域DXプロデューサー認定イベント（☆2、☆3）

③ オンライン番組の製作

④ （法人会員メニュー・共通）自治体や関係団体との共催イベント（セミナー・ワークショップ・展示など）

＊ 法人会員共通メニュー

法人会員・理事会員に加えて、協賛会員を新設・活動を強化

「デジ田応援団」2年目の法人会員メニュー（案）　＊自治体会員･個人会員は無料です

	既存会員制度				新設会員制度（協賛会員）			
会員分類	自治体パートナー	法人会員	個人会員		協賛会員L ローカル	協賛会員S シルバー	協賛会員G ゴールド	協賛会員P プラチナム
企業分類					地域企業	地銀/有力企業	全国企業	上場企業クラス
HPでの紹介	○	○	○		○	○	○	○
LINE等での紹介	○	○	○		○	○	○	○
交付金入札情報提供	○	○	○		○	○	○	○
地域DXメニューブック掲載	○	○	○		○	○	○	○
自治体合同イベント参加	○	○	○		○	○	○	○
官・産・学・民サミット	△	△	△		△	△	○ *1名	○ *2名
広告広報権					○ *地域のみ	○	○	○
オンライン番組の製作					○	○	○	○
DXP（☆2）自治体/学校主体 ビジネスピッチイベント	○*				○ *地域開催のみ	○	○ *自主開催可能	○ *自主開催可能
DXP（☆3） DXPサミット	○*				○ *1名	○ *1名	○ *3名	○ *5名
海外高度人材誘致定着・歴訪事業	○*				*現在検討中			
国内高度人材地域歴訪事業	○*				*現在検討中			
グランドデザイン構想会議の創設					*現在検討中			
	無料	10万円	無料		50万円	100万円	300万円	1,000万円

AGENDA

1	**1年目（2022年）の活動レビュー**
2	2年目（2023年）の事業計画概要
3	具体的な施策
4	協賛企業メニュー

「デジ田 応援団」1年目の活動レビュー：法人会員メニュー

「デジタル田園都市国家構想」1年目。「デジ田 応援団」は、１．協働する自治体、企業や個人の会員化、２．地域や自治体や地域課題解決・魅力化をする企業機関との共同イベントの開催、そして、３．自治体のDXに役立つ事例入りのメニューブックの作成・活用促進を目指しました。

１．会員の増大。

「デジタル田園都市国家構想」に共感し、良いより形で実装する仲間（会員）として、114の自治体、85社の法人、517人の個人会員、1,000人のSNS会員が参加（2022年12月時点）

２．各地域での自治体のと共同セミナーやメタバース、Z世代やローカルハブなどの企業機関とセミナー、ワークショップや展示などを実施

〝産〟 〝学〟 〝官〟 〝民〟 の連携で、セミナー、ワークショップ、展示や説明会など様々な形で全国で「デジタル田園都市国家構想」を推進しています。 2月18日の設立総会で官公庁、自治体、企業、大学、個人が、イノベーション、大阪・関西万博、メタバース、Web3.0、ローカルハブ、Z世代、地域プロデューサーなどをテーマに開催。

３．「地域DX」メニューブックの作成・配布と説明会の実施

自治体を支援するために、会員企業を中心に、自治体用デジタルツールをまとめたデジタル田園都市国家構想応援団「地域DX」メニューブックを作成し、自治体向けに無料で公開しています。
123種類の自治体DXのツールの事例を集めていて、デジ田交付金の申請や検討に活用されています。
また、2022年11月25日に、主に自治体に向けて「地域DX」メニューブックの概要と使い方のオンライン説明会を実施。146名が参加。このほか、法人会員が自治体とマッチングする機会を創出しています。

主催： 一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団
仙台市
後援：東北大学
デジタル田園都市国家構想（デジ田）応援団
官民とつくる
デジタル時代の
東北のHUB・仙台
仙台・東北からデジタル実装により地域DXへ挑戦！
「地域DXプロデューサー」が仙台に集い、データを基盤にデジタル実装に
よる新産業をつくり、外貨獲得とボトムアップの成長を目指した
「デジタル時代の東北のHUB・仙台」を共に創るキック・オフイベント。
「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」ーデジタル田園都市
国家構想(デジ田)を実現させる。
現地参加募集！
抽選・人数制限あり
10/13

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団　主催

デジタル田園都市国家構想推進
「地域ＤＸ」メニューブック活用
自治体向けオンラインセミナー

DXの取組に悩まれている自治体の皆様必聴！

菅野大志　西川町長

山田良司　大田区

デジ田応援団会員企業が自治体の皆様の悩みを解決！

日程	2022年 12月26日（月）
時間	14:00～15:30
登壇	山形県西川町　町長　菅野大志
登壇	大田区産業経済部長　山田良司

セミナー内容
- 西川町と大田区の「地域DX」のお悩みや工夫等ご紹介
- デジ田応援団企業から解決例や選択メニュー等ご提案

下記QRコードからおねがいします！

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団
TEL:03-5348-3509
FAX:03-5348-2704
https://form.run/@seminar1226

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団　主催

田園都市国家構想発祥の地「香川県」
高松から送るデジタル戦略セミナー

こんな話が聞けます！！

- 一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団の紹介　藤原洋 代表理事他
- 高松市のスマートシティ構想（高松市都市計画課 伊賀室長）
- Web3と地域データ主権（デジタルプラットフォーマー社 宮沢和正氏）
- 商店街と地域メタバース、NFT・デジタル地域通貨（魚町商店街振興組合 理事長　梯輝元氏）
- 高松市の商店街とDX（高松市丸亀町商店街振興組合理事長古川康造氏）
- 盆栽NFTプロジェクト（玉井謙二氏）デジ田応援団2023プロジェクト他

日時　2022年12月27日(火)14:00～17:00

会場　高松市美術館講堂　香川県高松市紺屋町10番地4

形式　ZOOMによる配信

ハイブリッドセミナー

第２部　「みんなでweb3国家戦略特区をつくろう」
18:00～20:00　(17:15-18:00 名刺交換会)
会場: Licomo 香川県高松市常磐町2-6-17 松原ビル 3F

２部の申込は　https://web-mining.doorkeeper.jp/events/148276

セミナー視聴をご希望の方は下記QRコードよりお申込みください

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団
TEL:03-5348-3509　FAX:03-5348-2704
https://digital-supporter.net/

デジタル田園都市国家構想応援団 賀詞交換会

1月16日(月)

第1部　17時～18時30分頃

1、大田区における中小企業向けDXに関する取り組み

2、参加企業の今年の新商品などに関するPR

3、参加自治体のサテライトオフィスや企業誘致のPR

会場　羽田イノベーションシティ「PIO PARK」

京急・東京モノレール「天空橋駅」直結

東京都大田区羽田空港1丁目1番4号 HICity ZONE K 2F

第2部　19時～20時30分頃　交流会

会費　4,000円(第2部からの参加も可能)

会場　羽田イノベーションシティ「クレアディスケ」

HICity ZONE J 2F

主催　(一社)デジタル田園都市国家構想応援団、大田区

お申し込みは

申込

一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団
TEL:03-5348-3507　FAX:03-5348-2704
https://digital-supporter.net/

地域DXに取り組む85社の法人会員、114の自治体などで活動する「一般社団法人 デジタル田園都市国家構想応援団」は、当会の運営理事である大田区と一緒に賀詞交歓会を行います。
未会員の方でも、地域DXに関心のある方の参加を歓迎します。

2023年「デジタル田園都市国家構想(デジ田)」は2年目を迎えます。
DXで地域の個性を活かし『点を線や面にして世界とつなぎ』地域課題の解決と 魅力の向上を如何に実現していくのか。地域発で、次世代を担う若者がリード して、産官学民と未来をどうデザインしていくのか。
「デジ田応援団」の2年目の活動の軸は、自立した地域=「デジ田ローカルハ ブ」構築とそれをリードする地域(共創型)DXプロデューサー(クリエイティブ クラス)の認証資格制度、全国・世界とつながる歴訪・育成プログラムと共創 するコミュニティの構築を推進します。

これら地域DXをリードする地域の産官学民、大田区始め全国の参加企業や参加自治体が構想する「プロジェクト2023」を新年一堂に会してPRし、マッチングやエール交歓を行う、デジ田実現に向けた公民連携キックオフ賀詞交換会です。

*デジタル田園都市国家構想 応援団
https://digital-supporter.net/

概要 2022年2月18日設立。働き、学び、暮らす地域からデジタルの実装を進め、新たな変革の 波を起こし、地方と都市の差を縮めていくことで、世界とつながり栄える「デジタル田園 都市国家構想」の実現に向けて、産学官民連携の活動団体。114の自治体、85社の法人会員、517人の個人会員が参加(22年12月現在)
代表理事:藤原洋(株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長CEO) 専務理事:岡田大士郎(株式会社HLDLab代表取締役)

シンポジウムタイムテーブル　2023年2月7日(火)　9:30-12:00

9:00-9:30	受付	
9:30-9:45	開会挨拶	●福岡県知事　服部誠太郎 ●九州DX推進コンソーシアム　共同代表　九州大学総長　石橋達朗 ●一般社団法人デジタル田園都市国家構想応援団代表理事　藤原洋
9:45-9:55	九州DX推進コンソーシアムの取組紹介	●九州DX推進コンソーシアムの取組 ●地域企業向けDX導入支援コンサル業WGの取組 □経済産業省　令和4年度　地域DX促進活動支援事業(地域DX推進コミュニティ事業)
9:55-10:50	九州の各県・地域DX推進コミュニティの取組紹介	●各県の取組[福岡県／熊本県／鹿児島県] ●各地域DX推進コミュニティの取組 ["One Kyushu DX"イニシアティブ／DX共創ラボin九州コミュニティ]
10:50-11:30	デジタル田園都市国家構想応援団の取組紹介	●デジ田施策と応援団の活動[デジ田応援団] ●GX・カーボンニュートラル応援事業[みらいリレーションズ／アイ・グリッド・ソリューションズ／OSAKAゼロカーボンファウンデーション／古賀市／BCT総研] ●共助のIDとデータ連携応援事業[デジタルプラットフォーマー／ソラミツ] ●デジ田ローカルハブと地域DXプロデューサー応援事業[デジ田応援団]
11:30-11:35	閉会挨拶	●九州DX推進コンソーシアム　デロイト トーマツ グループ　西日本エリア統括　磯俣克平
11:35-12:00	名刺交換会	

同時開催　デジタル田園都市国家構想応援団ワークショップ　13:30-16:30

(討論内容)

ワークショップ1　デジ田ローカルハブと地域DXプロデューサー人材
- デジタル田園都市国家構想(デジ田)応援団2年目の進化と「九州のローカルハブ」との連携
- 若き地域DX人材がAIアートで描く九州・日本の未来と「明星和楽」との連携

ワークショップ2　GX・カーボンニュートラル
- 地域脱炭素及びGX(グリーン・トランスフォーメーション)の潮流と九州エリアでの取り組みについて
- 一般社団法人OSAKAゼロカーボンファウンデーションの取組
- 古賀市の脱炭素施策によるゼロカーボンシティーの推進
- 会計データからCO₂排出量が算出できる見える化DXツール「環進帳」の説明　など

ワークショップ3　平時・有事のウエルビーイング
- 自治体が企業や個人とつくる「デジタル公共」が支える平時・有事のウェルビーイングについて　など

共助のIDとデータ連携
- 「共助のIDとデータ連携」をテーマに関係企業と会場でパネル議論　など

※3会場同時並行で3つのワークショップを実施

ワークショップ参加申込
会場参加・オンライン参加　https://form.run/@digiden-082627
申込期限　会場参加：1月31日(各ワークショップ先着25名)／オンライン参加：2月6日(先着300名)

※内容は一例であり、変更の可能性があります。

一般社団法人 デジタル田園都市国家構想応援団

デジタル田園都市国家構想を実現するために不可欠な官民連携のために、自治体と民間企業が自主的に結集して、設立した団体です。令和4年末現在、114の自治体、85社の法人、517人の個人会員で活動して交流して自治体DXを実現しています。
(団体ホームページ https://digital-supporter.net/)

九州DX推進コンソーシアム

九州におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)を産学官金で推進することを目指し、令和3年11月に、一般社団法人九州経済連合会、国立大学法人九州大学、デロイト トーマツ グループ、福岡県の4組織で設立した団体です。令和4年末現在、58団体が加入し、8つのワーキンググループが活動しています。

デジ田を、官民連携で応援するデジ田応援団

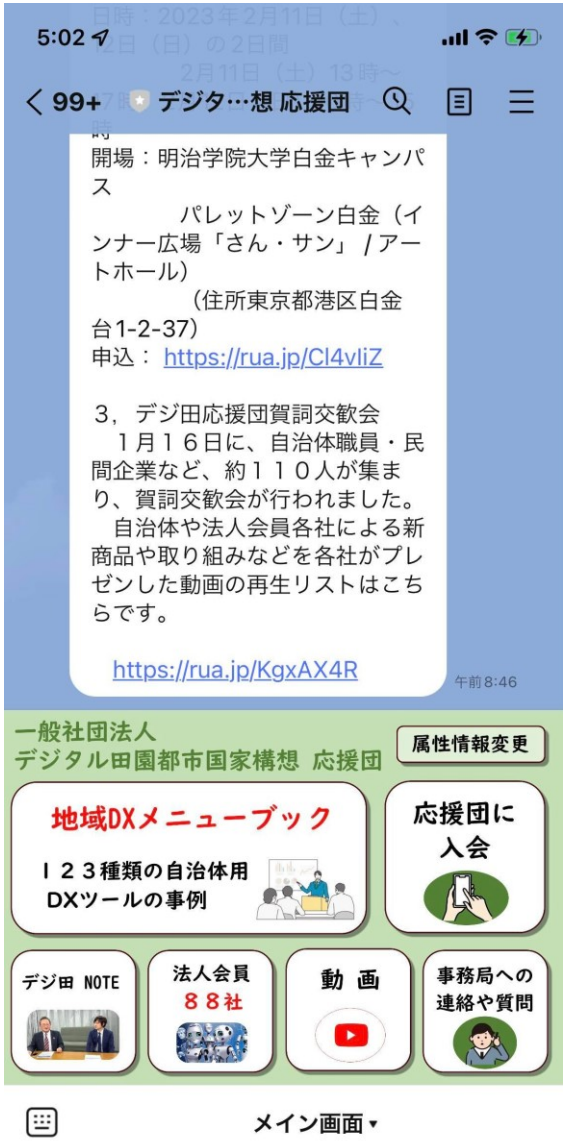
「地域DX」メニューブック

目次

① 行政サービス …… P.3～24
② 住民サービス …… P.9～12, 15～18, 23, 25～43
③ 健康・医療 …… P.6, 15～17, 44～51
④ 教育 …… P.6, 18, 32, 52～62
⑤ 防災 …… P.6, 23, 38, 63～66
⑥ 交通・物流 …… P.6, 67～73
⑦ 農林水産 …… P.15～17, 32, 74～79
⑧ しごと・金融 …… P.15～18, 32, 80～92
⑨ 観光文化 …… P.6～7, 15～17, 38, 53, 58, 81～82, 93～110
⑩ その他 …… P.6, 111～125
★ セミナーのご案内 … P.126

参考）情報共有

「デジ田 通信」



「デジ田 応援事業チーム」

AGENDA

1	1年目（2022年）の活動レビュー
2	**2年目（2023年）の事業計画概要**
3	具体的な施策
4	協賛企業メニュー

「デジ田 応援団」2年目の基本方針と期待される効果について

「デジ田」2年目。「デジ田応援団」2年目の活動の基本方針：

目指すべき自立した「デジ田ローカルハブ」のゴール設定と それを実現する「地域DXプロデューサー」認定事業の立ち上げ

特に、「地域DXプロデューサー」の認定事業とは、DXを活用した地域の課題解決と魅力化を実現できる人材を発掘・認定・育成する内容であり、「地域DXプロデューサー」を発掘・認定・育成することは、貴社にとって以下のメリットが期待できます。

⑴ 地域DX推進の最大の課題はDX人材の不足。自治体様内にDX人材の育成が可能。

⑵ リスキリング（新しいことを学び、新しいスキルを身につけ実践し、そして新しい業務や職業に就くこと）という、自治体様においても、各個人のキャリア再形成の大きな機会に。

⑶ 人的資本経営（人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営の在り方）という、まさに、地域の価値向上の経営を担う人材を自治体内で輩出できること。

⑷ 地域の小中・高校・高専生・大学生などの次世代のキャリア形成に大きく貢献できること。

⑸ 「協賛会員企業」をはじめとするDX支援企業や地域DXプロデューサーとのマッチングや連携機会ができること。

是非、ご協賛ご協力ご支援をよろしくお願いいたします。

「デジ田 応援団」2年目の重点施策：「協賛会員」メニュー

「デジ田応援団」2年目の重点施策：

1．「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）

2．「地域DXプロデューサー」の発掘・認定・育成認定事業の立ち上げ

3．海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム（仮称： 90 day Japanese programme）

4．国内高度人材の地域歴訪事業プログラム（仮称：テロワールラーニングジャーニープログラム）

5．地域発日本の未来をグランドデザインを構想する会議の創設

具体的な施策：

① 官・産・学・民キックオフサミット開催

② 地域DXプロデューサー認定イベント（☆2、☆3）

③ オンライン番組の製作

④ （法人会員メニュー・共通）自治体や関係団体との共催イベント（セミナー・ワークショップ・展示など）

＊ 法人会員共通メニュー

2年目（2023年）の「協賛会員」事業計画メニュー

1	「地域DXプロデューサー」の発掘・認定・育成認定事業の立ち上げ
2	「デジ田ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）
3	海外高度人材の歴訪事業プログラム
4	国内高度人材地域歴訪事業プログラム
5	地域発日本の未来をグランドデザインを構想する会議の創設

＊スタートにあたり、官〻　〻産〻　〻学〻　〻民〻 が関係者が一堂に集うキックオフサミットを実施予定です。

構築する「デジ田 ローカルハブ」のプロトタイプ構築（地域→地球メタバース構築）

地方圏や大都市圏に関係なく、国内外の様々な都市・地域と連携し、付加価値の高い仕事を根付かせ、新たな成長を生み出し続けるためには、「ローカルハブ＝地域(都市)自立圏」＝「デジ田ローカルハブ」が必要です。

ローカルハブ

①求心力
- 企業の意思決定機能
- 国家機関　等

②連携力
- 国際化企業
- 世界で存在感のある技術力

③循環力
- 新しい産業を育成する仕組み
- 産業革新を応援する仕組み

ローカルハブの循環

サービスの提供

データ等の提供

例：スマートトイレ、地域課題を題材とした人材育成

連携

例：市民参画アプリ

連携

例：金融機関と連携した新規事業創出

連携

例：微生物消化ガスでの発電

連携

例：遠隔行政手続き、市民との対応履歴活用

連携

連携

連携

連携

連携

例：遠隔保健指導、スマートホスピタル
遠隔・無意識での高齢者見守り

例：中山間地・デマンド交通、
人流データ分析、フィジカルインターネット

例：SDGsパートナー登録制度・交流会

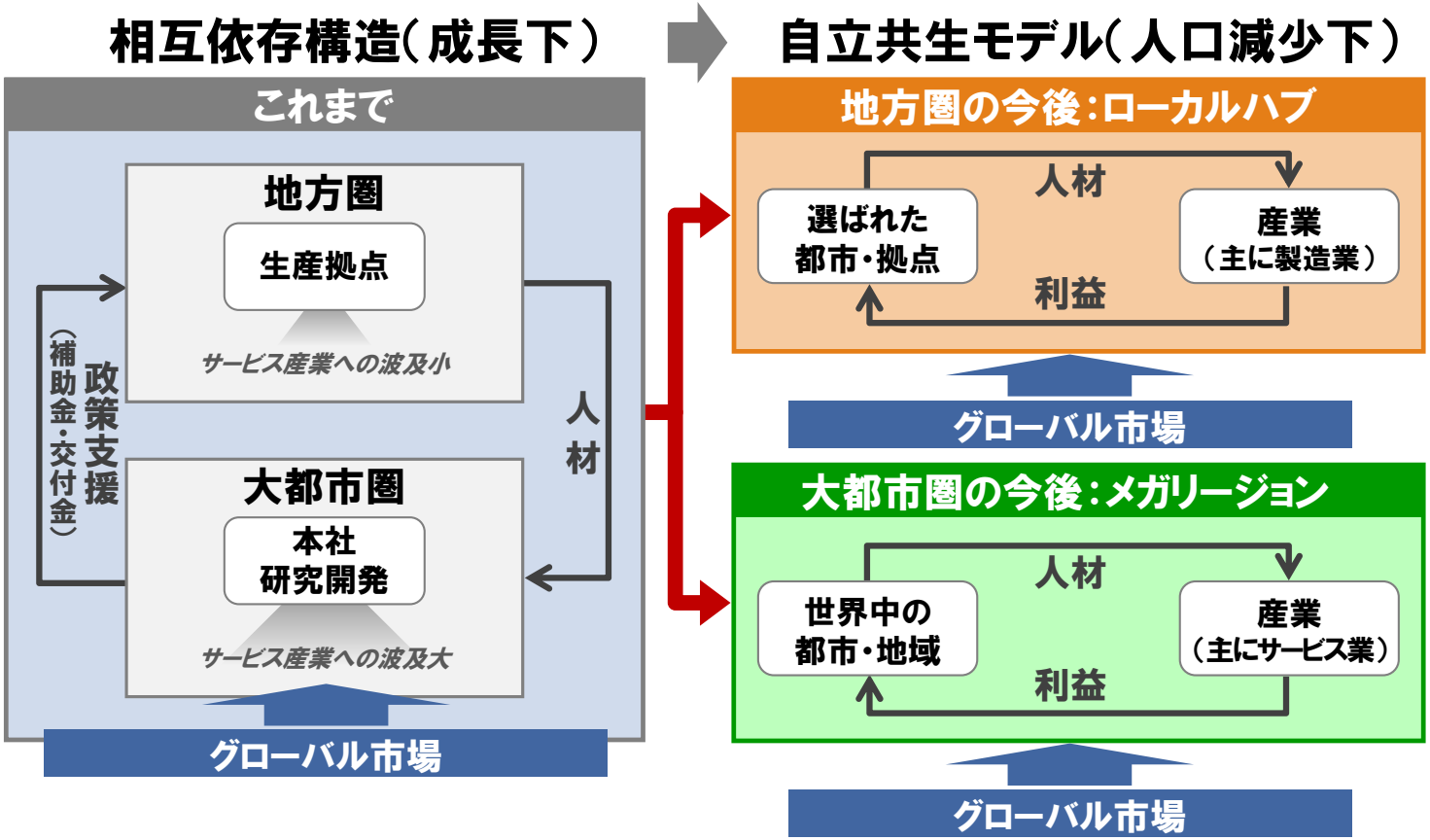
例：防災情報一元化、平時データの避難時の活用

住民自ら動く・参加するウエルビーイング・コミュニティ

*資料引用：NRI 野村総合研究所

地域活性化と日本の再生の実現、その鍵は“ローカルハブ”

■ 地方圏にあって（＝ローカル）、国内外の様々な都市・地域と連携した（＝ハブ）「自立（独立）都市圏」



*資料引用：NRI 野村総合研究所

地域DXプロデューサー／地域DXスペシャリストとは

地域DXプロデューサー（LdxP）

「地域独自の価値・魅力を最大限に引き出し、地域課題の克服や新たな産業の創出により、
そこに暮らし・集う人々の幸せとサステナブルでウェルビーイングな地域経済／社会を実現する」
プロジェクト・リーダー／総合プロデューサー

個人（学生、個人事業主他）

自治体職員

地元企業、スタートアップ、ベンチャー経営者、他

一般企業の役員、社員

LdxPは、「最新のデジタル・テクノロジーや事業デザイン力、マーケティング力をLdxSと連携し、それぞれの力を駆使しながら、国内外、産官学民と連携し、地域に暮らし・集う人々と心と力を合わせて変革／創造を牽引する
“ケイパビリティ”と“人間力”がある」ことが要件

地域DXスペシャリスト（LdxS）

①ビジネスデザイナー

②データサイエンティスト／AIエンジニア

③UXデザイナー

7人の北斗七星をイメージ

④アーキテクト

⑤エンジニア／プログラマー

⑥先端技術エンジニア

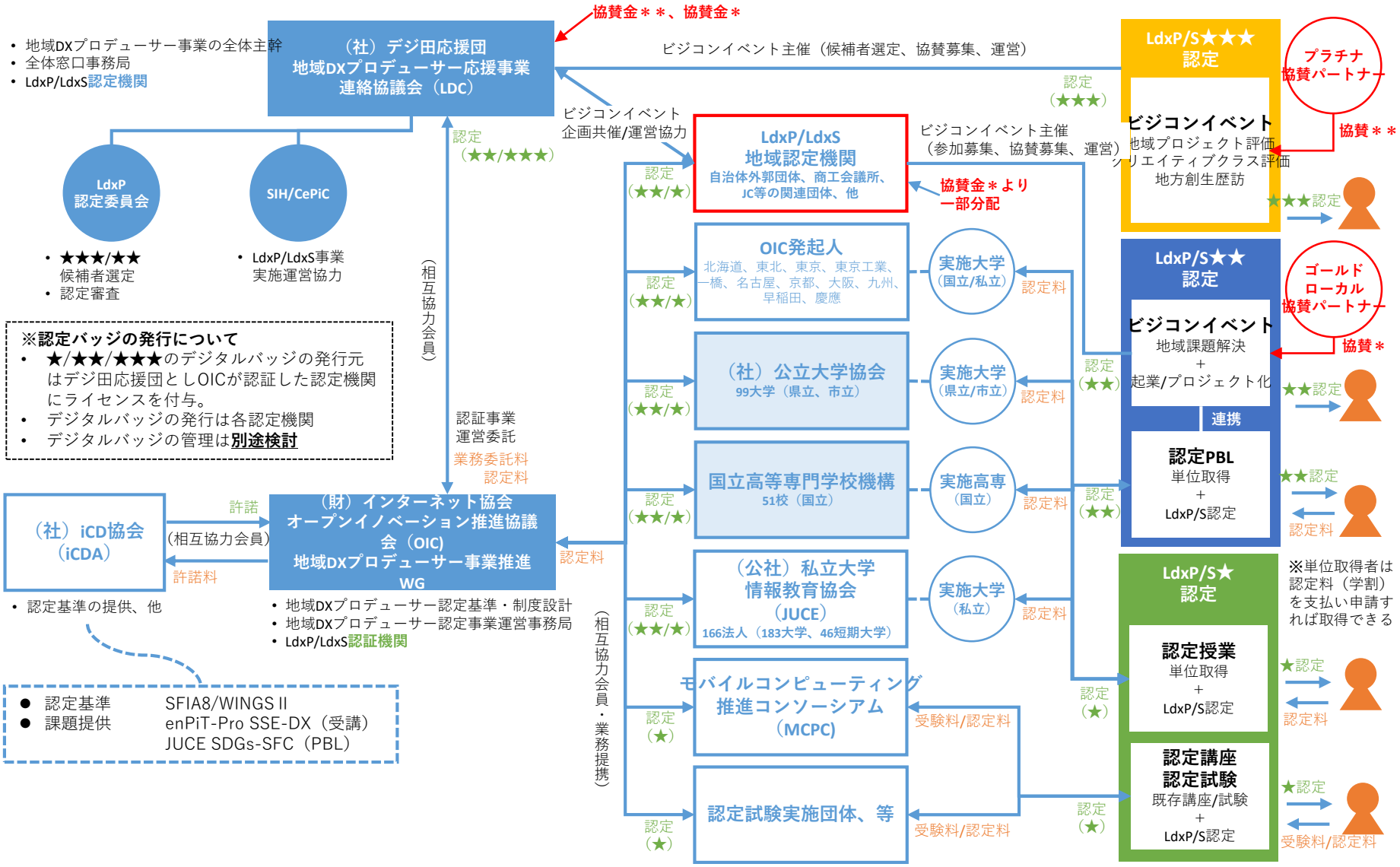
⑦サイバーPRマーケター

LdxPとともに、「それぞれが持つ高度な専門性“異能”を発揮し、変革／創造を実現」する7カテゴリーで定義した
スペシャリスト／エキスパート／イノベーター

LdxPの審査方法

	LdxP★【グリーン】	LdxP★★【ブルー】	LdxP★★★【ゴールド】
位置づけ	1. 地域DXプロデューサー初級（座学） 2. 試験／審査に基づき個人を認定	1. 地域DXプロデューサー中級（実践） 2. LdxP★に対してPBL、実績で審査 3. 資格ではなく、地域毎の評価認定	1. 地域DXプロデューサー上級（貢献者） 2. 各地域での実績があり、地域／全国コンペティションでの評価で認定
審査方法	1. 認証機関が認めた認定講座・試験の修了・合格＋認定機関への申請 ① DX関連資格（MCPC他） ② 高専、大学の指定講座修了単位（OIC、私情協） 2. 地元自治体、経済団体（商工会議所、用展開、JC他）等の推薦＋本人申請（活動実績／成果等を示す資料、ビデオ等）に基づき、認定機関による審査	1. LdxP★を対象に、PBLを開催、一定の成果を上げたものに対して授与 ① 各地域主催の地域課題ビジコン入賞 ② 高専、大学のPBL講座成績優秀者 2. それぞれ認証機関が認めた地域認定機関が審査、認定。審査委員は認証機関、地域認定機関が委嘱した各界有識者 3. 各地域ビジコンは協賛方式での運営を想定。高専・大学は地域協同PJ	1. LdxP★／LdxP★★を対象に全国各地域でのプロジェクトに貢献した実績讃え、地域ブロック、全国の優秀者を評価 2. 地域課題テーマ別、地域ブロック別、等の各賞と全国総合最優秀者等を設定 3. 全国自治体からの推進による公募と書類審査、入賞者は全国大会でプレゼン審査。各界有識者による審査 4. 協賛方式の運営を想定
認証	1. 公認資格として、履歴書等に記載可能 2. 認証は、「オープンバッジ」「デジタル証明書（印刷保存化）」で発行 3. 所属法人は「LdxP事業者」表記化	1. 地域課題ビジコンはプロジェクトの評価とLdxP/LdxSを評価し、それぞれ認定 2. ○○年LdxP★★として「オープンバッジ」「デジタル証明書」を発行	1. 審査はプロジェクトとLdxP/LdxSを評価、認定 2. ○○年LdxP★★★として「オープンバッジ」「デジタル証明書」を発行
更新	1. 技術革新による有効性と手続きの手間を考慮し、2年更新（※キャリアカウンセラー、中小企業診断士等） 2. 認証機関が認めた認定講座の必要単位を修了	1. 毎年開催。ビジコン入賞者、PBL単位取得者は「○○年LdxP★★」として公式サイト、メディアに公開 2. プロジェクト内容が異なれば同一人物の連続受賞は妨げない	1. 毎年開催。各賞に「○○年○○部門LdxP★★★」として公式サイト、メディアに公開 2. プロジェクト内容が異なれば、同一人物の連続受賞は妨げない
その他	1. 地方創生、地域DX推進に必要な人材要件を満たす公式資格としてその活動を保証／評価。例えば、公共プロジェクトや民間取引条件として有資格者として記載、等 2. 就職活動や、人事評価／異動／昇格等にも活用	1. 対象者はPBL、ビジコンの取組内容、審査結果等を、認証機関／デジ田応援団等の公式サイトやメディアに公表、全国の自治体からの問い合わせ受付、人材紹介などのマッチング事業を別途検討	1. 総合最優秀者は日本を代表する「クリエイティブクラス」として、協賛団体からの報償、特典を提供 2. 日本を代表する「クリエイティブクラス」として、対象プロジェクトともに世界に発信

事業運営体制・全体スキーム（案）



3 海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム

③ 海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業プログラム

90 day Japanese programme：連携・受入自治体様募集中

概要　海外の高度人材（DXプロデューサーを軸に）の誘致定着と、地域への歴訪実践により、グローバルにおけるデジ田ローカルハブ構築を目指す。

＊フィンランド政府が2021年より実施している「フィンランド90日プログラム」を連携を視野に入れて検討中

主幹　デジ田応援団 地域DX会（インターネット協会 CIO会）

・デジ田応援団内 地域DXプロデューサー応援事業連絡協議会（地域DX会）

概要：デジ田応援団内の応援事業チーム(部活)として、本プロジェクトを企画立案し、デジ田担当大臣、デジタル大臣等〝官〟〝産〟〝学〟〝民〟の要路の協力・支援・協賛等を得て、2023年度より本格始動させるべく活動している。

代表：デジ田応援団 代表理事 藤原 洋、事務局長：CePiC代表理事 上村 章文

・一版社団法人みんなの地球公園国際コミュニティー（CePiC）

名称：一般社団法人みんなの地球公園国際コミュニティー（CePiC）連絡協議会

概要：G7伊勢志摩サミットに向けた富山G7環境大臣会合で地域の産官学民と創設。G20大阪サミットに向け地域創業に向け内外メンターが集結。地球公園→「世界公園」を全国・世界へがわたしたちの目標です。～みんなの地球公園は、国連SDGs持続可能な開発目標達成の舞台・広場です～。

公式HP： https://www.cepic.earth/

代表：代表理事：上村章文（元総務(自治)省）

メンバー：150名のメンター（22年10月）

協力　フィンランド大使館　在日フィンランド商工会議所（FCCJ)

実施時期　検討中

参考：「フィンランド90日プログラム」とは

フィンランド90日プログラム：フレックスプレイスから定住へ。クリエイティブクラスの誘致

フィンランドの「90日お試し移住」に応募殺到　世界のIT人材獲得へ　90日間、ヘルシンキであなたの滞在を無料サポートします。こんなキャンペーンを、海外のIT技術者を対象にフィンランドのビジネス団体が企画したところ、15人の定員に世界各地から5330人の応募があった。小国ながらも世界を変えるIT技術を生み出してきた同国だが、少子高齢化が進行しており、国を挙げて有能な移民獲得に取り組んでいる。

まずはお試しから　手厚いサポートに応募者続々

このキャンペーンを企画したのは、国際貿易と投資を促進する組織、ヘルシンキ・ビジネス・ハブだ。当選者には空港での出迎え、フィンランド生活に必要な公的書類、住宅および子供の学校や託児所の手配、リモートワーク用施設、ハイテクハブやネットワークへの紹介を含めたパッケージが用意されている。航空券代や滞在費は自腹だが、お試し滞在終了後に移住を決めた場合は、永住権申請のための援助が受けられる。

世界中から応募があり、30%は北米からだった。応募者の70%がリモートワーカーで、16%が起業家、12%が求職者だった。さらに投資家60人からの応募もあったという。15人の当選者とその家族は2月下旬にはヘルシンキに到着し、お試し生活を開始する予定だ。

国内では人材不足　米IT技術者獲得に本気

フィンランドはノキア、SMS、Linuxを世界にもたらし、人口1人あたりのデジタルスタートアップが世界で最も多いIT先進国だ。IT分野で高いスキルを持つ人材を必要としているが、需要が供給に追いついていない。

その理由が労働人口の減少だ。少子高齢化が進んでおり、十分な移民を受け入れなくては労働力が確保できない。長期的に見ればこのままでは雇用自体が減り、その結果、国際競争力を失うと見られている。そこで政府は、「タレントブースト（Talent Boost）」というプログラムを立ち上げ、積極的に有能な外国人材の獲得を目指している。

世界の優秀な人材にとって、これまでフィンランドが希望の移住先の上位に来ることはなかった。スタートアップが盛んといっても、人口600万人弱のフィンランドの首都ヘルシンキの人口は100万人にも満たない。世界的な影響力が小さく、観光客の往来も少なく、多国籍企業の本社も少ない小都市、というヘルシンキのイメージが不利になっているという専門家の声もある。

こういったハンデを克服し、フィンランドの魅力をアピールしてほかの都市との差別化を図るため、お試し移住は計画された。

キャンペーンの主要ターゲットはパンデミック対応のまずさと政治的分断に疲れた、アメリカ西海岸のIT技術者だという。北欧の寛大な社会福祉や優れた学校制度も彼らには魅力的だ。参加者にフィンランドの良さを知ってもらう絶好の機会になると同時に、宣伝効果も期待できそうだ。

参考：
https://www.helsinkipartners.com/90-day-finn/
https://www.helsinkipartners.com/90-day-finn-2022-profiles/

4 国内高度人材の地域歴訪事業プログラム

４．国内高度人材の地域歴訪事業プログラム

テロワールラーニングジャーニープログラム：連携・受入自治体様募集中

概要　国内の高度人材（DXプロデューサーを軸に）の地域への歴訪実践により、実践と地域同士の共有を加速化し、デジ田ローカルハブ構築を目指す。

＊L47(事務局:えぞ財団) が検討している「テロワールラーニングジャーニープログラム」との連携を視野に入れて協議中
＊JC（日本青年会議所） の実施する「価値創造プロジェクト」との連携を視野に入れて協議中。

主幹　デジ田応援団 地域DX会（インターネット協会 CIO会）
・デジ田応援団内 地域DXプロデューサー応援事業連絡協議会（地域DX会）
概要：デジ田応援団内の応援事業チーム(部活)として、本プロジェクトを企画立案し、デジ田担当大臣、デジタル大臣等 〝官〟 〝産〟 〝学〟 〝民〟 の要路の協力・支援・協賛等を得て、2023年度より本格始動させるべく活動している。 代表：デジ田応援団 代表理事 藤原 洋、事務局長：CePiC代表理事 上村 章文
・一版社団法人みんなの地球公園国際コミュニティー（CePiC）
名称：一般社団法人みんなの地球公園国際コミュニティー（CePiC）連絡協議会
概要：G7伊勢志摩サミットに向けた富山G7環境大臣会合で地域の産官学民と創設。G20大阪サミットに向け地域創業に向け内外メンターが集結。地球公園→「世界公園」を全国・世界へがわたしたちの目標です。～みんなの地球公園は、国連SDGs持続可能な開発目標達成の舞台・広場です～。
公式HP： https://www.cepic.earth/
代表：代表理事：上村章文（元総務(自治)省）
メンバー：150名のメンター（22年10月現在）

実施時期　検討中

5 地域発日本の未来をグランドデザインを構想する会議の創設

5．地域発日本の未来をグランドデザインを構想する会議の創設

概要　地域、日本と世界の視点から、地域自体と日本の未来を構築する会議体。
デジ田応援団の諮問組織として位置付ける。
特に、会議体メンバーと地域の次世代との対話や交流、全面支援を主眼とする。

主幹　デジ田応援団・CePiC

実施時期　2023年4月～

メンバー構成　検討中

活動

1．定例会議　事務局がリードしたうえで、メンバーの発表・発案＋討議。
2-3か月に一度開催。
2年目の途中からの活動に反映や共同展開も検討。
対外的な情報発信の核として、また、デジ田への提言なども検討。

2．デジ田主催共催イベントへの参加
会議体メンバーと地域の次世代（高校生・大学生など）との対話会を検討
＊地域の首長などとの面談も可。

3．応援団会員向け
①メールやLINEでのコラム
②随時、会議体の開催
③個別勉強会の開催

＊協賛企業のイベントや対談への参加（要検討）

参考）デジタル田園都市国家構想実現会議 有識者構成員

石山 志保 福井県大野市長
井澗 誠 和歌山県白浜町長
太田 直樹 株式会社 New Stories 代表取締役
加藤 百合子 株式会社エムスクエア・ラボ代表取締役社長
正能 茉優 株式会社ハピキラ FACTORY 代表取締役・ 慶應義塾大学大学院特任助
竹中 平蔵 慶應義塾大学名誉教授
冨田 哲郎 東日本旅客鉄道株式会社取締役会長
野田 由美子 ヴェオリア・ジャパン株式会社代表取締役会長
平井 伸治 鳥取県知事/全国知事会会長
増田 寛也 日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長
村井 純 慶應義塾大学教授
柳澤 大輔 株式会社カヤック代表取締役 CEO
湯﨑 英彦 広島県知事
若宮 正子 特定非営利活動法人ブロードバンドスクール協会理事

具体的な施策

AGENDA

1	1年目（2022年）の活動レビュー
2	2年目（2023年）の事業計画概要
3	**具体的な施策**
4	協賛企業メニュー

① 官・産・学・民キックオフサミット開催

：ラウンドテーブル参加自治体様募集中　＊要調整

概要	「デジタル田園都市国家構想」と「デジ田応援団」2年目のキックオフにあたり、産・官・学・民の関係者が一堂に会するキックオフサミットを行う。 ＊昨年2022年2月18日の「デジタル田園都市国家構想」発足会をイメージし、実施を予定。
主催	デジ田　応援団
協賛	内閣官房デジタル田園都市国家構想(デジ田)実現会議事務局、デジタル庁、デジ田推進議連
協力	デジ田応援団(事務局：東武トップツアーズ)を構成する、CePiC、SDGs Innovation HUB、JC(日本青年会議所)、 DEEP47(事務局：Creator's Next)、インターネット協会(構成：7帝大＋早慶)、私情協(私立大学情報教育協会)、L47(事務局：えぞ財団)、フィンランド大使館
開催時期	2023年2月下旬を予定

② 地域DXプロデューサー認定イベント（☆2、☆3）

☆2：地域DXプロデューサーピッチ in ○○○（自治体名）：開催連携自治体様募集中

概要	地域DXプロいデューサーの☆2認定試験は、PBL講習の上、具体的な市町村の社会課題や魅力化を、DXを利用して解決する具体的な事業計画をビジネスコンテスト形式で行うものとする。
主催	主催自治体×デジタル田園都市国家構想応援団（青年会議所と連携した、SDGs Innovation HUB（SIH）とCePiC/SIHメンターが主導） 協賛企業×デジタル田園都市国家構想応援団　＊他の形式も検討
協賛	協賛企業各社
協力	地域DXプロデューサーを発掘・認定・講習する関係団体
期間	募集から最終ビジネスピッチコンテストまで4～6か月を想定
形式	スタートアップのアクセラレータープログラムを想定。 ・DXの基本・応用技術の習得 ・（該当）地域での地域課題の発見・解決 ・（該当）地域での地域の魅力化 ・コミュニケーション力 ・プレゼンテーション力　などを習得
選考	最終ビジネスピッチでの審査

＊該当自治体での翌年度のデジ田交付金の指名企業（スタートアップ）や協賛企業との連携投資も検討。

② 地域DXプロデューサー認定イベント（☆3）

☆3：地域DXプロデューサーサミット：連携参加自治体様募集中

概要	地域DXプロいデューサーの☆3に認定された地域DXプロデューサーが一堂に会するセミナー、ワークショップ、事例紹介や授与式を行う。
主催	デジタル田園都市国家構想応援団
協賛	協賛企業各社
協力	地域DXプロデューサーを発掘・認定・講習する関係団体
期間	検討中
形式	・セミナー ・ワークショップ ・事例紹介 ・展示 ・授与式（懇親会）

③ オンライン番組の製作

デジ田応援団 オンライン番組の製作

「地域NEXT･日本NEXT･･･地域再興サスティナブルプロデューサーたち」（仮タイトル）

⑴概要：「デジ田応援団」の協賛企業や地域DXプロデューサーを紹介するオンライン番組の製作。
･会員メリット強化：協賛企業を中心に、法人会員、自治体パートナー、個人会員や地域DXプロデューサーの活動、メリットや使用実例などを紹介
･知名度向上強化：「デジ田応援団」自体の情報発信強化による知名度向上
･会員内の活動強化：「デジ田応援団」内の自治体、企業や個人会員同士のコミュニティ活動の活性化

⑵番組の製作名：「地域NEXT･日本NEXT･･･地域再興サスティナブルプロデューサーたち」

⑶日時：2023年5月より、第1回リリース予定。 最長でも、10分を想定。
形式：オンライン配信

⑷番組の製作告知：デジ田のオウンドメディア
＊PRTIMESやSNSなど随時対外発信強化を行う。

⑸番組の製作形式
地域再興サスティナブルプロデューサー（企業の代表･地域DXプロデューサーなど）が出演し、企業（自身）･商品サービスの概要･活動や具体的な事例（利用者が商品やサービスへのコメント）を書紹介。（女性）司会者がその内容を聞き出す形式。
1～2社･名の登場を想定。

AGENDA

1	1年目（2022年）の活動レビュー
2	2年目（2023年）の事業計画概要
3	具体的な施策
4	**協賛企業メニュー**

メリット

地域や自治体内での地域DXプロデューサーの発掘・認定・育成

☆1の講習＊有償を予定：地域DXプロデューサー認定
＊教育関係など要調整
☆2の試験（ビジネスピッチイベント）：自治体での開催が可能。地域の課題解決や魅力化を事業化。また、地域の企業・大学や自治体職員が参加可能
＊条件などは個別
☆3の地域DXプロデューサーサミット（仮称）：参加することにより、デジ田ローカルハブのプロトタイプの共有、地域DXプロデューサーとの面談や連携が可能

官・産・学・民キックオフサミットへの参加
＊会場に限りがあり、参加条件などは個別相談

以下事業は、現在、検討中であり、詳細決定後、連携など検討する予定です。

・海外高度人材の誘致定着・地域歴訪事業：連携や受入れが可能
・国内高度人材の地域歴訪事業：連携や受入れが可能
＊現在、実施概要に関して検討中であり、詳細は後日に。

法人会員・理事会員に加えて、協賛会員を新設・活動を強化

「デジ田応援団」2年目の法人会員メニュー（案）　＊自治体会員･個人会員は無料です

	既存会員制度				新設会員制度（協賛会員）			
会員分類	自治体パートナー	法人会員	個人会員		協賛会員L ローカル	協賛会員S シルバー	協賛会員G ゴールド	協賛会員P プラチナム
企業分類					地域企業	地銀/有力企業	全国企業	上場企業クラス
HPでの紹介	○	○	○		○	○	○	○
LINE等での紹介	○	○	○		○	○	○	○
交付金入札情報提供	○	○	○		○	○	○	○
地域DXメニューブック掲載	○	○	○		○	○	○	○
自治体合同イベント参加	○	○	○		○	○	○	○
官・産・学・民サミット	△	△	△		△	△	○ *1名	○ *2名
広告広報権					○ *地域のみ	○	○	○
オンライン番組の製作					○	○	○	○
DXP（☆2）自治体/学校主体 ビジネスピッチイベント	○*				○ *地域開催のみ	○	○ *自主開催可能	○ *自主開催可能
DXP（☆3） DXPサミット	○*				○ *1名	○ *1名	○ *3名	○ *5名
海外高度人材誘致定着・歴訪事業	○*				*現在検討中			
国内高度人材地域歴訪事業	○*				*現在検討中			
グランドデザイン構想会議の創設					*現在検討中			
	無料	10万円	無料		50万円	100万円	300万円	1,000万円